

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 8月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3472300288
法人名	有限会社 ひまわり
事業所名	グループホーム さくら
所在地	広島県大竹市南栄2-6-31 (電話) 0827-53-3130
評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	

【情報提供票より】(19年7月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 9 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16人 常勤 12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての 1階 ~ 1階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	0			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1000 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	68 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いいい記念病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「さくら」の運営理念は表現が画一的でなく地域密着型を目指した具体的で解り易い表現になっている。この理念に沿ったサービスの質の向上に向かっていくことが確認できた。家庭的に設備は充実され、運営の大半は管理者の自主運営に任せられ職務への意欲は活力的で、職員とのコミュニケーションが十分に保たれ、其の穏やかな雰囲気が入居者の支援に大いに反映されているホームです。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との関わりをより一層緊密にすることさ前回の課題であったが、運営推進会議を開催することに「さくら」の存在は広まっており、更に加速させたいとの意向がある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	項目別に正面から向き合っ対応している状況が伺える。当日訪問前施設への道を尋ねたところ、近隣者は充分な認識を持たれていた。
重点項目	会議の議題は「さくら生活状況の報告」と記し主にグループホーム側の発言が主体となる。この会議から地域の自治会長、民生委員の理解が深まった状況が伺える。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	2ヶ月に1回発行の「さくら通信」の他に電話による状況報告を行っているが、利用者の家族からは好評である。家族からの個別の意見なども事業所として取り入れ運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	今、「さくら」で最大の関心事は地域との連携をより深めていくことで、地域の小学校、老人クラブのボランティアとの連携も其の一環として考慮中である。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	正に地域密着型サービスを目指した運営理念を掲げて、全職員がこの理念のもとでサービスに努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を念頭において行動しており、部屋の各所に生活訓等実践に役立つ張り紙が目立つ。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入しており、祭りや餅つき等値域の活動に参加し交流をするよう努めている。地域の人より不要になった人形等の提供を受けることもある。		小学校、地区老人会等と交流を深めてゆきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業全体として評価の意義を理解して意欲が見られる。		祭りや町内会の行事に出かける。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開かれる会議を有意義に活用し、事業の状況説明をして、会議で検討された意見をサービス向上に向けている。		

グループホームさくら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者との交渉はあるものの、機能の働きは少なく、目下のところ運営委員会に力を入れている。		問題が起きた事案のみの交渉でなく、日常生活の中で市側との接触を保ちたい。
ところ運営					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2ヶ月に1回の通信「さくら」を発行、手紙、電話で状況を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見、不満、苦情を言える環境を作る努力をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は殆んどなく利用者へのダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は法人内外の研修への理解は充分あるが、市主催の研修会に応募するが参加人数の枠があり、実現できないことがある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列に3箇所ของกลุ่มホームがあり代表者会議が1ヶ月に1回もたれている。他所との交流は現在はない。		業界の知識などをふかめるため、他事業所との交流を深め参考とされたい。又、系列内での職員の交流も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族と相談しつつ職員ひとり1人が円滑なサービスが出来るよう努力している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事前の挨拶の唱和をリードする役目をする利用者が居られるなど、家庭的な雰囲気が作られて和やかな食事時間があった。当日は甲子園の野球の決勝戦の日で利用者と職員は笑顔でテレビ観戦を楽しんでいた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者に希望を聞き、積極的な利用者には励ましながらか、個別に支援している。ミーティングで個々の問題についても検討している。</p>		<p>利用者の希望等を日常生活の会話の中から読み取り、其の人らしい暮らしの支援が出来るよう努力されてい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の意向を聞き、家族との面談時に希望、要望を聞いている。其の後職員全員で意見交換やアイデアを出し合っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月ごとにモニタリングを実施し緊急を要する場合は職員と家族で話し合いを行い計画を見直ししている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	居室に面した長い廊下は冷房が効かされ外出が出来ない暑中でも歩行機能の訓練の場所として、有意義に活用されている。		転倒には特に注意していると職員より発言があった。危険のリスクがある中でも「歩行、動き」を見守る支援が求められる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を確保しており、希望があれば他の病院も受診できる。		連絡は常に密にし、細部に渡り情報を双方で共有している。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や医師との話し合いの後、職員と家族で再度話し合いを持ち、希望に沿えるよう努めている。		職員間のチームワークを強化する為、今後とも一層の勉強を続けたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者1人ひとりの人格の尊重に心がけている。笑顔で優しい声掛けがされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や状態に合わせて、1人ひとりのペースに沿う支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前準備の台拭き、配膳、食事後のかたづけ等、利用者が主体となって役割を持たれ、ゆったりと楽しそうに作業が行われている。職員は同席で食事を摂り共に楽しむ雰囲気がある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回のペースで入浴が出来る。但し利用者の希望には臨機応変に応じている。		利用者1人ひとりが入浴を楽しみ生活してゆけるよう、ゆったりと時間をかけて入浴介護が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、皿洗い、掃除、等それぞれ役割を持たせ支援している。庭の菜園の手入れも職員と共に楽しみつつ行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩などできる限り個々にあった希望に沿って外出するように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの建物の位置(車道に面する)を考慮し家族の了解を基に玄関は施錠されている。		なるだけ鍵をかけないように努めたいが、いま少し様子を見て実行にうつしたい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との防火訓練をし、災害時にスムーズに非難が出来るようマニュアルが整備されている。		地域の方々にも協力を得られるよう働きかけている。

グループホームさくら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量など記録票に記入し実態が把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチンで見守りや声掛けが容易に出来る。共用空間(リビング)は広く、リビングに続く外デッキには自由に出入りが可能で物干しや外気浴が出来て開放感がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を自由に持ち込みが出来ることを入居時に説明され、使い慣れて小タンスや椅子が居室で使用されている。本人の製作品も飾られて楽しめている。		